

# 黒人神学 Black Theology

## Overview

- ・ 議論の前提——宗教の両義性と黒人の歴史
- ・ 公民権運動——黒人神学の前史
- ・ 黒人神学の形成
- ・ 影響史

## 議論の前提 — 宗教の両義性と黒人の歴史 —

### 宗教の両義性



## 奴隷制

- ・ アメリカ黒人は、16世紀初頭から19世紀半ばまでの400年の間、西洋人によってアフリカ（主として西アフリカ）から連れてこられた者の子孫。
- ・ 1000万人以上のアフリカ人が南北アメリカに強制移住させられ、過酷な労働に従事させられた。
- ・ アフリカ人の多くは、部族ごとの宗教を持ちながら、一部は、キリスト教やイスラームを受容していた。

## 奴隷制を正当化するために用いられた聖書箇所

しかし、あなたの男女の奴隷が、周辺の国々から得た者である場合は、それを奴隷として買うことができる。あなたたちのもに宿る滞在者の子供や、この国で彼らに生まれた家族を奴隷として買い、それを財産とすることもできる。彼らをあなたの息子の代まで財産として受け継がせ、永久に奴隷として働かせることもできる。しかし、あなたたちの同胞であるイスラエルの人々を、互いに過酷に踏みにじってはならない。（旧約聖書「レビ記」25:44-46）

※ 奴隷制に対する異論が出てくるのは17世紀後半から。クエーカーは神の前の平等を主張。

## 黒人奴隷と聖書（1）

- ・ 出エジプト記（モーセおよびヨシュアらの導きによってカナンへ）
- ・ 「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」（ルカ 4:18-19）

## 黒人奴隷と聖書（2）

- ・ 「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男と女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」（ガラテヤ書 3:28）
- ・ 十字架にかけられたイエスに対する強い共感。

## Deep River（黒人霊歌）

Deep river, my home is over Jordan,  
Deep river, Lord,  
I want to cross over into campground.  
Oh don't you want to go to that gospel feast,  
That promis'd land where all is peace?  
Oh deep river, Lord,  
I want to cross over into campground.

## 公民権運動 — 黒人神学の前史 —

## M. L. キング, Jr. (1929-1968)

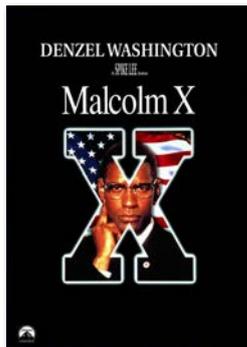
- ・ 1955年、モンゴメリーのバス・ボイコット運動を指導。
- ・ 1959年、インドをおとずれ、ガンディーが追求した大衆的非暴力抵抗運動に影響を受ける。
- ・ 1963年、ワシントン大行進「私には夢がある。いつかジョージアの赤い丘で奴隷の子孫と奴隷所有者の子孫が兄弟として同じテーブルにつく夢が」
- ・ 1964年、ノーベル平和賞受賞。
- ・ 1967年、ベトナム戦争への批判（アメリカの三重の悪：人種差別、貧困、軍国主義）。
- ・ 1968年、暗殺される。





## マルコムX (1925-1965)

- ・ キング牧師らの非暴力主義による黒人運動に反対し、暴力による権利獲得をめざした。
- ・ 1946年、強盗罪で刑務所におくられたマルコムは、服役中、ネーション・オブ・イスラムの教えに触れる。
- ・ 1960年代初頭、ネーション・オブ・イスラムのもっとも有名なスピークスマンとなる。
- ・ 1964年、脱退。メッカを巡礼。
- ・ 1965年、暗殺される。



1992年、米国作  
主演：デンゼル・ワシントン



## 黒人神学の形成

## 黒人神学の形成

- ・ ジェームズ・H・コーン (1938-)
- ・ 人種隔離政策の中で成長する。黒人を差別する白人たちが同じ神を信じていることへの疑問。
- ・ 1950～60年代の公民権運動の影響を受ける。
- ・ 白人中心の抽象的神学を批判。

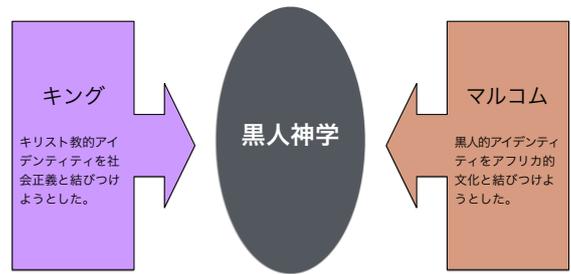
## コーンの代表的著作

- ・ Black Theology and Black Power, 1969.  
『イエスと黒人革命』新教出版社、1971年。
- ・ A Black Theology of Liberation, 1970.  
『解放の神学——黒人神学の展開』新教出版社、1973年。
- ・ The Spirituals and the Blues, 1972.  
『黒人霊歌とブルース——アメリカ黒人の信仰と神学』新教出版社、1983年。
- ・ God of the Oppressed, 1975. 『抑圧された者の神』新教出版社、1976年。
- ・ Martin & Malcom & America: A Dream or a Nightmare, 1991. 『マーティンとマルコム、そしてアメリカー夢か悪夢か』日本基督教団出版局、1996年。

## コーンの神学の特徴

- ・ キングの integrationism (統合主義) とマルコムの nationalism (民族主義) を相補的にとらえようとしている。
- ・ キングは、かつて人種隔離制度を内面から支えていた個人主義的贖罪信仰を、地上のもっとも小さい者たちの連帯性の戦いへと解放した。
- ・ マルコムは黒人的アイデンティティの重要性を教えてくれた。

## 黒人神学の特徴



### 『解放の神学——黒人神学の展開』から (1)

- ・ 白人は死の現実から逃れようとする。彼ら (黒人) は、白人を見るたびに死を見ているのである。
- ・ 本来の終末論的展望は歴史的現在に根拠を持たなければならない。現在の秩序に挑戦しないような終末論的展望では不十分である。
- ・ われわれ自身の子供たち苦痛や苦悩を見捨てたままにしなければならないとしたら、永遠の生命でさえ何の益があるのか。

### 『解放の神学——黒人神学の展開』から (2)

- ・ モルトマンの分析は黒人神学の関心と矛盾しない。
- ・ 黒人の関心を天国に向けることは白人奴隷主に起因する。しかし、天国はもはや、現実の不正義を受容するためには用いられない。天国を信じるということは、地上の地獄を受け入れることを拒絶することである。

## 影響史

## コーン以降の黒人神学

- ・ 第二世代
  - ・ コーネル・ウェスト (Cornel West) : 社会科学的分析を加える。
- ・ 第三世代
  - ・ ジェームズ・H・エヴァンス (James H. Evans) : 本格的な組織神学を展開。



## キングとオバマ

- ・ キング
  - ・ 晩年、ベトナム反戦を通じて、貧困との戦い（戦争はそれを後退させる）、公民権運動と平和運動の結合（両者は分離していた。戦争では黒人兵が高い割合で犠牲となる）を主張。
- ・ オバマ
  - ・ キング世代を「モーセ世代」、自分たちの世代を「ヨシュア世代」と呼ぶ。
  - ・ ノーベル平和賞受賞演説（2009年）で、ガンジー、キングらに敬意を払いつつも「正しい戦争」があることを主張。「ガンジーとキングの手本だけに導かれるわけにはいかない」。

## 【参考文献】

- ・ 梶原寿『解放の神学』清水書院、1997年。
- ・ 主として黒人神学を扱っている。
- ・ コーネル・ウェスト『人種の問題——アメリカ民主主義の危機と再生』（山下慶親訳）新教出版社、2008年。
- ・ 黒崎真『アメリカ黒人とキリスト教——葛藤の歴史とスピリチュアリティの諸相』神田外語大学出版局、2015年。